

滋賀県立近代美術館協議会(第36回)概要

1 開催日時：平成25年(2013年)3月6日(水)午前9時30分～12時

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：滋賀県立近代美術館協議会委員 9名

上野真知子委員 尾崎正明委員 川瀬典子委員 木村尚達委員 辻喜代治委員

辻村琴美委員 別府博委員 三原サダ子委員 吉岡千恵子委員

関係者

宮川管理監(「美の滋賀」発信推進室長)

木村「美の滋賀」発信推進室副主幹

滋賀県立近代美術館事務局

秋山館長 菊井副館長 高梨学芸課長 日野総務課長

西川文化振興課長 安川主事

4 会議次第

(1) 滋賀県立近代美術館 秋山館長 あいさつ

(2) 議 事

① 新生美術館の検討状況について

② 平成24年度事業実績について

③ 平成25年度事業計画(案)について

5 概要

① 新生美術館の検討状況について

【委員】

○基本計画の策定が1年延びたということであるが、方向的には、前回の説明のような方向で行くのか。前回の説明では、ここに新生美術館を建てるということであったが、1年の協議の後に、全く場所が異なってしまう、状況が変わってしまうということもあるのか。

【関係者】

○個人的な意見ではあるが、この近代美術館は30年の歴史があり、一定のファン層がおられ、また、文化庁の公開承認施設であるという貴重な美術館であり、この貴重な美術館を最大限活かすということが前提になると思っている。ここに全部を集中させ、増館をしてという案を今年度は作ったが、それだけではないだろうというのが県議会の意見、あるいは県民の皆さんの意見でもあるので、ここの施設は最大限活かしながら、一部の機能をどこか外に出すという選択肢も考えざるを得ないであろうというのが、私の今の考えである。

【委員】

○以前に、「近江の仏教美術等魅力発信検討委員会」の委員をさせていただいたときに、新生美術館を拠点として、パイロットショップみたいなものを、湖西、湖南、湖北に点在させて集客を図るという案も出ていたと思うが、そのような案なのか。

【関係者】

○これからまた考えさせていただくが、いくつも作るというのは現実的には難しいと思っている。

【委員】

○資料に記載されている予算額は、確定したものか。

【関係者】

○確定したものではない。今、2月県議会で議論いただいているので、議決された時点で確定することになる。

【委員】

○基本計画の策定が1年延びたということであるが、新生美術館の完成はいつごろになる見込みか。

【関係者】

○前回説明した基本計画に基づき、来年度から基本設計に入ったとすればという前提で思い描いていたのは、29年度から30年度の完成というもので、議会でもそのように答弁申し上げている。基本設計に入ってから4～5年はかかると考えているが、先ほども申し上げたように別の選択肢をとることになると、逆に整備方法が短縮できる可能性もないことはない。まだ案を出していない段階なので、スケジュールまでは出てこない。いずれにしても、そんなに遅くしてはいけないと思っている。

【委員】

○1年延びたから、お尻も1年延びたということではないということか。

【関係者】

○我々は、前回説明した基本計画がベストの案と考えているが、その案をとった場合には、当初思い描いていたよりは、1年先になるとご理解いただきたい。

【委員】

○アール・ブリュットをどうするかということを除いて、美術館と琵琶湖文化館の機能をどうするかということについては、前回の説明と基本的にはかわらないということか。

【関係者】

○県議会でも、琵琶湖文化館の機能は継承して、あるいは発展をさせて、滋賀県にある仏教美術というものを大いに発信すべしということに関しては、100%に近いコンセンサスが得られていると思う。アール・ブリュットについては、2月10日に、青柳正規氏に会長に就任いただき、全国ネットワークを結成、まだ、1月を経過していないところであるが、予想を上回る500以上の機関や個人の方に参加をいただいているところであり、滋賀県への期待の高まりが感じられ、ソフトの関係でネットワークを築くが、美術館として、是非作品が見られる場所、あるいは、未来に向け収蔵されていく場所がほしいという声が高まってきていると思う。県議会においてもかなり理解いただいていると私は思っている。

②平成24年度事業実績について

【委員】

- 収集費は少しでも無理か。少額でも、出ると出ないとでは作家の関心度がものすごく違う。京都市は、最近、少額ではあるが出しており、数点買って、作家の他の作品も一緒にもらうということもあった。京都市がそういうことをやり出したということで、作家にとっても注目度が違ってきている。新生美術館が云々ということが出ているときに、たとえ500万円でも出せれば、雰囲気は違ってくる。是非とも努力していただきたい。

【事務局】

- 従来、滋賀県立近代美術館美術品取得基金というものがあつた。その基金は廃止されたが、同時に、新たに滋賀県文化振興基金というものができ、そこに積み替えられているので、買えないということではない。基金の積み立て額は、もともとは5億円ぐらいあつたが、新基金への積み替えのときには8,600万円ぐらいになっていた。制度的には基金から一般財源に繰り出して購入するということはできないことはないが、今は、財政上の統一的な考え方として、そういう取り崩しを認めないという状況にある。今後、具体的に、是非こういう作品を当館で取得しなければならないというようなものが出てきたときには、基金を取り崩し、予算をつけてもらえるよう努力したいと考えている。

【委員】

- 昨日、テレビで「なんでも鑑定団」を見ていたら、番組の中で、速水御舟の「洛北修学院村」という、青いきれいな日本画を解説する場面があり、どこの所蔵かと見てみると、滋賀県立近代美術館と書いていた。速水御舟は、日本画をガラリと変えた方で、収集家の中では、すごい貴重な方らしく、その方の絵が近代美術館にあるとは知らなかった。

【事務局】

- 「洛北修学院村」は、当館が購入した購入価格としては一番ではないが、2番か3番かの額で購入したものである。

【委員】

- テレビ放送があつた時に、タイムリーにそれを展示すると、テレビを見ていた人は、見に行こうになると思うが。

【事務局】

- 常設展でも時々出している

【事務局】

- 今は京都文化博物館に貸し出しているところである。

【委員】

- たとえば、メルマガの中で「鑑定団で紹介されたこの作品は近代美術館にあるので来てください。」というように、うまく連動させるというような集客の方法もあるのではないか。

○今、お寺の取材をしているが、地域のお寺で、織田瑟瑟の桜絵など、良い作品を収集されている方がおられる。織田瑟瑟は織田信長の末裔で、滋賀県に非常にゆかりのある方で、桜画という幹を中心にした絵を残しておられる。収集費がなければ、それらをお借りして、展示し、皆さんに見ていただくというような工夫はできないか。

【事務局】

○展覧会にはテーマとかストーリーというものがあるが、そこに当てはまるというか、それがそこに必要な作品ということになれば、当然、展示させていただきたいということになるが、それだけを単独に何の脈絡もなく展示するというわけにはなかなか行かないという気がする。

【委員】

○節電クールライフキャンペーンで観覧料が無料になると、観覧者数が4ケタ台に上がるということであるが、韓国では博物館などは無料で、子供たちがたくさん来ていた。県全体としての方針もあるかもしれないが、近代美術館については、月のうち何日かは無料にするというような検討をしていただくことはできないか。

【事務局】

○博物館法では、公立の博物館の観覧料は、本来は無料で、例外的に必要な対価を取れるということになっているが、県全体の方針がある中で、美術館だけを無料にするとなると、財政的な問題などもあり、非常にハードルが高いものとなる。

【委員】

○世界的に見れば、無料のところが多いと思う。

【事務局】

○日本ではあまりないと思う。

【委員】

○無料にしているところが、どうやってペイしているかというところ、ギャラリー以外の施設を拡充しているところが多い。非常に大きなカフェスペースがあって、行楽の場所になっていたりとか、ショップを大きく展開しているとか、みんなが楽しく過ごせるような施設を伴って、ギャラリースペースは料金を取らないというところが多いと思う。何か目玉の観光施設のようなものを思いきって作るということができないかと思う。

【事務局】

○金沢21世紀美術館でも無料スペースがかなり大きくとられている。ごく一部の展示室に入るときだけ料金がある。たくさん来られているお客さんの多くは無料だろう。日本でもそういうところはあることはある。

【委員】

○このことは近代美術館だけの問題ではない。県の他の博物館なども同じことが言える。ここだけで考えるのではなく、県全体で、入場料は取らないよう、条例を変えてはどうか。

【委員】

○滋賀県は無料だということが話題なり、メディアに載ると、無料にすることの価値もあるのではないかと。

【事務局】

○観覧料を免除する制度は、学校団体や高齢者、障害者など、複数設けている。また、毎月第3日曜日の家族ふれあいサンデーや毎月第3土曜日の体験学習の日については、対象者を無料にすることもしている。

【委員】

○あるかもしれないが、探さないとわからない。

【事務局】

○今年の「チェブラーシカとロシア・アニメの作家たち展」では、どちらかという若い女性が多かったのですが、答えがはっきり出ていなかったが、その前の年の「五味太郎作品展」のときには、観覧者総数約1万5千人のうち、幼児が約2,000人、有料ではあるが小中生が約1,500人、併せて3,600人で、それに対し、大人の有料観覧者数が7,800人で、ちょうど1対2の割合となり、一人のお子さんが2人の大人を引っばってくるという、数字的にはっきりとした答えが出ていた。なかなか全部を無料にするのは難しいが、展覧会によっては、子どもさんを無料にし、大人が後ろからついてくるようなことが確実に見込めるような展覧会もあると思うので、そういうことができると、美術館としては、非常に展開が広がっていくことになると思う。

【委員】

○30数年間民間企業にいたせいか、こういう採算度外視の話をされるのかと、驚きながら聞いていた。収益事業ではないのは間違いないが、そうはいっても、これだけ多角的にいろいろな事業をやっているならば、当然のことながら経費がかかる。その大半は公費で賄われているということかもしれないが、集客を増やして、その収入である程度賄えるようにもっていくのが本来の姿ではないか。基本的には受益者負担というか、見た人が料金を払うというのが基本ではないかと思う。無料というのは、消費者からみればありがたいと思うが、税金などで補填されているわけであり、見た目の無料であって、本来は無料ではないということだと思ふ。

○今日は事業報告をされると聞いて来たので、学校など同じように、いくら事業収入があり、援助がいくらあり、経費でいくらかかったということも報告されるのかなと思っていたが、そういうことはされないのか。議会とか、県の担当部署に対しては、そういうことをされているのか。そういうことを求めているということではないが、民間的な考え方からすれば、年間の締めくくりに事業報告というからには、こういうことをやって、その数字の裏づけはどうなっていて、それに対して今後、どういう対策を打って、どのような事業展開をしていくかというようなことになるのではないかと思う。

○平成17年度までは、観覧者数が10万人を超えていたが、15年、16年を境に10万人を超えなくなった理由は何があるのか。テレビ番組を見ても、美術番組は意外と多い、BSなんかをみても結構ある。美術に興味のない人が多くなったとも思えない。

【事務局】

○はっきりとした理由があるというわけではないが、開館当初、昭和62年の観覧者数が最も多くて20万人近く、そこから15万人前後が続き、それが13万人、12万になって、10万ぐらいで落ち着いて、平成15年、16年までいって、そこから下がってきているという大きな流れになっている。確かに、開館当初は、滋賀県に全く美術館がなかったときに、当館ができて、多くの方に関心をもっていただいて、多くの方に来ていただいたということであったと思われる。ただ、当館の場合、多くのお客さんが集まる京都や大阪の大規模な美術館が近くにあるので、立地的には不利になっている。ロケーションも、環境としては良いが、アクセスが悪いというイメージが強い。地方の美術館をみると、県庁所在地にひとつあって、近くには美術館がないというところでは、そこに集中してお客さんが来られるということはあるが、当館のある湖南地域の場合は、京都の方からお客さんに来てもらえるという利点はあるが、逆にそちらへ流れるという方も多く、1年に見られる回数がそんなに増えるわけではないので、京都、大阪の方へ行かれると、こちらの方へ来られる方が少なくなる。要するに。展覧会のテーマ等に対するニーズとか興味が高まれば、こちらに来られるし、向こうの方に見てみたいのがあるということになれば、そっちへ行かれてしまうことになるが、予算がだんだん減ってきており、展覧会にお金をかけられなくなってきていることが回りまわって集客数の減につながっているのかもしれないという感じがしている。

【事務局】

○確かなことではないか、リーマンショックがこの頃ではなかったか。それで税収が落ち込んだ翌年ぐらいから観覧者数も落ち込んできたという記憶がある。

【委員】

○平成23年度の10万人回復というのは、これは「白洲正子展」によるものか。

【事務局】

○「白洲正子展」は平成22年度であった。昨年度は、「祈りの国、近江仏像展」が約1万5千人、「五味太郎展」が約1万6千人、それから「珠玉のヨーロッパ絵画展」が約1万と、1万人を超えたのが3つあった。平成24年度も2つの展覧会が1万人を超えているが、「自然学展」と、1万人は超えたが「石山寺縁起絵巻の全貌展」は思っていたより少ないものとなった。

【委員】

○「石山寺縁起絵巻の全貌展」はもっと入っても良かったのに。面白かったと思う。

【委員】

○展覧会としては、すごく良い展覧会だったと思った。

【事務局】

○鑑賞に時間がかかるので非常に賑わってる印象が強く、お客さんの密度が濃かったと思うが、数になると伸びなかった。専門的というイメージが強かったのかもしれない。

【委員】

○年齢層は高かったのか。

【事務局】

○そのとおり高齢者の割合が高かった。

【委員】

○その人が若い人を連れてくることはなかったか。子どもが大人を連れてく逆で、おじいちゃんおばちゃんが若い人を連れてくるということはないのか。

【委員】

○それはあまりないのではないか。

【委員】

○絵巻などはストーリー漫画に通じるようなところもあるので、たとえば子どもたち向けに何か絵巻を体験するようなワークショップをやってもよかったですのではないか。

【事務局】

○絵巻を作るワークショップを実施した。

【事務局】

○たいけんびじゅつかんで、10月27日に「てぬぐい絵巻」、11月23日が「絵巻×マンガ意外なカンケイ」というテーマで実施し、好評を得た。

【事務局】

○たいけんびじゅつかんは大変好評で、また参加したいと言われる方が多い。ただ、参加してもらえるのは、せいぜい20人とか30人というぐらいの数である。

【事務局】

○たいけんびじゅつかんで作成した作品を展示室を出たところに展示し、観覧者の方に見てもらったりもしている。

【委員】

○「石山寺縁起絵巻の全貌展」を見せていただいたときに、動きがすごく面白かった。面白い動きみたいなものを大きくして、子どもたちに、何をしているのかなという興味を引くような視点で展示される部分があっても良かったのではないか。

【委員】

○学生時代に、中央公論社から「日本の歴史」という本が出ていた。今でも文庫本で出ているが、その中で、石山寺縁起絵巻は、いろいろな風俗とか、その時代の背景を説明するのに相当引用されている。歴史的な写真代わりになっていると思った。高校生などは、日本史の学習の際には、そういうものを見ていると思う。学校の団体鑑賞が意外と少なかったということであったが、学校の歴史の先生とかに、もっと声をかけても良かったのではないか。全巻一挙に公開されることは滅多にないということで、東京で開催されても相当人気があったのではないかと思う。

【事務局】

○全巻一挙公開は空前絶後かもしれない。

【委員】

○意外に少なかったということに終わらず、継続的に何かもっと展開できないのか。

【委員】

○全国レベルではなくても、テレビのスポットコマーシャルを流すのは、すごい費用がかかるのか。早い話が知られていないわけで、びわ湖放送で流してもらってはどうか。

【事務局】

○びわ湖放送は、主催をやってもらっているときには、かなり流してもらっている。

【委員】

○コマーシャルを見て、関心のある人なら、パソコンを開くなり、情報を収集して、行くか行かないかを決めると思うが、「石山寺縁起絵巻の全貌展」にしても、開催されているということ自体が知られないことには始まらない。先ほどの絵巻を作るようなワークショップもやっているというようなことをスポットコマーシャルで流すと、集客力が全国的に及んだのではないか。どんなに良いことをしていても、知られないことには誰も来てくれない。

【委員】

○スポットを流すような展覧会というのは、新聞社か放送会社が乗らないととてもできない。金額が桁違いである。

【委員】

○スポットが流れているところの美術館は、そのぐらい費用をかけているわけなのか。

【委員】

○新聞社が組んでいるときなどは、新聞社がやってくれるときもあるが、新聞社が組んでいるときでも、やってくれないケースのほうが多い。

【委員】

○広く知ってもらえる方法が何かないか。テレビ以外でも、何かマスメディアに取り上げられる何か良い方法はないか。

【事務局】

○短絡的に思うのは、NHKと組むことである。「石山寺縁起絵巻の全貌展」でも考えたが、NHKにも方針があり、1寺院とかを取り上げるような展覧会は、自分のところの企画でないことにはできないということであった。テレビスポットに数千万円要すれば、それだけの費用分をお客さんで戻さないといけないことになり、そのリスクを回避せざるを得ないのが今の現状である。

○展覧会を開催する場合、まず、いかに多くの人に来てもらえるかということから考えないといけない。それが広報ということになると思うが、広報費を展覧会の経費と同じぐらい出してくれることは非常に難しい。そこで、何か他の事業と抱き合わせるとか、何か違う方法論を考えないといけないことになるが、なかなか成功する事例は少ないと思う。

【委員】

○京都駅に平面の広告を出していると思うが、動画に変えることは無理か。

【事務局】

○京都駅の看板は今は出していない。予算が減り、何を削るかといえば、広報費を削らざるを得ない。

【事務局】

○今は、瀬田駅の広告も出していない。

【委員】

○そんなことでは、どうして人に来てもらえるのか。

【事務局】

○京都駅の当館の看板が出ていたところは、今、大津市歴史博物館になっている。

【委員】

○京都駅には広告はないのか。

【事務局】

○京都駅については、今は、駅貼りポスターぐらいである。

【事務局】

○車内吊りは出しているが、京都市の地下鉄だと、4日間ぐらいなので、見ていただく確率は低いと思われる。

【委員】

○滋賀の企業で、後援してくれるようなところはないのか。

【委員】

○お金を出すのではなく、既成のものを使わせていただくということはあると思う。たとえば、京阪電車なら、京阪と手を組んで、車内吊りを何とかするとか。企業がそういう場を提供するというのは可能だと思う。

【委員】

○広報というと、お金を出して、マスメディアの枠を買うという広報もあろうかと思うが、そうではない広報もあるかと思う。今度、NHKの大河ドラマで、黒田官兵衛をされるが、そういう大きな流れの中に乗って、私たちみんなが見たいと思うものを、やっていただくのが1番良いのではないか。黒田官兵衛が放送されるなら、黒田官兵衛に関するものを、ちょうど良い時期に展示して、新聞社に広報してもうというのが、お金のかからない発信力のある広報だと思う。それがひとつ。それと、企業と連携するというのもひとつ。もうひとつは、大学との連携というのではないか。近くに、立命館大学も、龍谷大学もある、滋賀医科大学もある。学生に来てもらう動員の仕方というのではないか。学校のカリキュラムのなかに近代美術館の展示を見るというのが2時間ぐらいあっても良いのではないか。大学と連携して大学から発信してもらうとか、研究項目の何かに入れるとか、何かそういう枝葉からの行き方というのどうか。やはり県立近代美術館やから、どんと座っている方が良いのか。

【事務局】

○大学と美術館では、基本的には目指す目標が違う。ここで、こういう議論をしているのは良いが、大学へ行って、この話をしたとすると、「無理やで、どうして大学まで帰ってくるのか。」というような返事が返ってくる。博物館課程とかそういうようなカリキュラムがある場合には、なるべくそういうものは引っ張ってくるようにはしているが、学生は、非常に忙しく、一日大学の中に拘束されたりしていることもある。

【委員】

○昨今、学生は忙しい。すぐ近くの美術館に行きなさいと言っても、行かない。目の前に案内書を出して、招待券を渡すと、それならということ、やっとなバイトのあいている日はいつか、手帳を見るような感じである。美術大学の学生でさえそのような様子なので、学生を動かすのはなかなか難しい。ゼミで往復の時間も入れた小旅行のようなことを計画されたりすれば、組んでらせるかもしれない。

【事務局】

○今、大学から来ていただくのは、1回生の研修みたいなものでバスで来られるとかというものである。そういうものの定期コースに入っている場合が当館でもある。単発で、学生を一本釣りするとかいうのは難しい。

【委員】

○研修が良いと思う。

【委員】

○そういうことで、近隣の大学にリクルートに行かれてはどうか。

【委員】

○やはり、学生には見てもらわないといけない。

【委員】

○確かにそう思う。何か方法論がないか。

【委員】

○この間、金沢21世紀美術館の館長をされていた方の話を伺ったが、美術館の集客をいかにするかということを考えたときに、やはり、来てもらうのは、小学生とか、中学生とか、高校生とか、子どもさんに来てもらって、それを広げていきたいということで、美術館にバスをおいて、バスを貸し出して、遠いところからでも来てもらうようにして、定着させていったということであった。県外とかということよりも、まず地元の子供たちが育って行って、美術を好きになってくれるということで、そこからやっていかなければいけないということで、すごく力を入れたというお話をされていた。新生美術館ができるのなら、そういうバスを置いてもらって、湖北の方からでも、小学校の3年生4年生は必ず、琵琶湖の船にのるのと同じように、バスに乗って美術館にくるといようなことなればと思いつつながら、話を伺っていた。そういう検討をしていただきたい。そのバスに大学へも行ってもらって。

【委員】

○湖南省にこにゃんバスというのができた。猫のトトロみたいなものすごいかわいいバスで、あれに来てもらうと話題性が出ると思う。

【事務局】

○先ほどの黒田官兵衛の話、それを一番上手にしているのが長浜市である。2月に展覧会をして人がたくさん入るのは、盆梅というものと抱き合わせにしてやっている。滋賀県の中で一番リーズナブルな予算で稼いでいる。条件が良いのは、大河ドラマで評判のいいのは戦国か幕末になるが、戦国を3年に1回ぐらいする。そうすると湖北は絶対に出てくる。

【委員】

○安土城考古博物館で信長の昔の料理を展示されたときに、写真を撮ってブログにアップしたときに、平凡社から写真を貸してほしいという電話があった。それが記事に載った。

【委員】

○JRの沿線案内には、記事の掲載を依頼しているのか。

【事務局】

○あれは、編集される側に選択権があり、依頼しているが、載せていただける場合と、いただけない場合がある。

【委員】

○あれはJRが自分のところで操作しますので。最後にここが空いているから滋賀近美を載せようかというに。こちらの力は及ばない。

【事務局】

○「白洲正子展」のときは、ブログがものすごく効果的であった。ブログを見て、かなりの人が来たということを知った。ブログを操作するのは限度があるので、自然発生的に増えるように考えていかないといけない。

【委員】

○今は。もうマスメディアの時代ではない。マスメディアの意味合いというのは、ほとんどなくなってきている。その攻め方というのは、多重なかたちでしないといけない。とくに美術館に来る人などは専門的な人が多いので、そういう方たちへの発信の仕方がこれから研究されることになると思う。わたしは、マスメディアはもう崩壊していると思う。一般の人も、景色と同じで何も注目をしない。個々のフェイスブックとか、今、言われたブログとか、そういう広がり方というのが出てくる。美術館などは、一番これからそうした広がり方が出てくる分野であると思う。そういう人たちが、逆にアートにひっかかったり、文化に関心を示すわけである。マスメディアで引っかかるというのは、ヨーロッパ絵画であったり、NHKである。そういう人たちとは違う層もあるということである。どういうところを美術館が目指していくか、予算がなければ、どういうやり方をしていくかということを経営的に考えていかなとといけない。

【委員】

○ホームページの更新というのはどういうふうになっているのか。

【事務局】

○展覧会の案内などは担当の職員がしている

【委員】

○日々のブログを発信するとかいうようなことはしているのか。

【事務局】

○やっている。ワークショップをしたときなどに、写真を撮ったりして、こういうことをやっていると発信している。それもそうであるが、先ほど申し上げたのは、一般の方のところ、何か火がつくと、非常に効果があるということである。

【委員】

○フェイスブックで撮影可能にして、どこかに「フェイスブックでアップしてください。」という看板を立てておくといい。若い人、大学生が来たら、絶対、写真撮ってアップする。アップしたら必ず、「いいね」を押してねと言ったら、皆、「いいね」を押してくれる。すると画面にいっぱい出てくる。その人が、今、近代美術館に来ていることが発信できる。

【委員】

○写真を撮ってよい場所を設定しないといけないということか。

【委員】

○今、所蔵品は撮っても良いのか。

【事務局】

○著作権の問題がある。

【委員】

○美術館の所蔵品でも同じか

【事務局】

○そうである。東京国立博物館などは、館蔵品はフラッシュなしであればということで、アメリカとかに近づいている。借り物に関しては、いちいち許諾があるので、なかなか難しい。そうすると、来られた方が、迷われると思う。これは撮っていいのか。取ってはだめなのか。

【委員】

○東京国立博物館にはよく撮りに行く。撮ることができるものはOKというマークが全部出ている。近代美術館も、撮っても良いものを、お知らせし、撮影を推奨するようなことができれば、きっとそれだけでも撮りに来る人もいるような気がする。それは、ぜひ検討されてはどうか。カメラマンも多いことであるし。

【委員】

○このあいだ、美術館へいったときに岡本太郎の塑像があつて、これは著作権があるから、単体でとってはいけませんが、ただ人が前にいて、記念撮影ならよいと書いていた。こんなやり方もあるのかなと思った。

【事務局】

○それは裁判所に聞いていただかないと。

【委員】

○厳密にいうと著作権侵害になる。

【委員】

○この間、草野彌生さんの作品について、この中のものは撮影OKですというのを出して、国立国際博物館がすごく当たった。作家が認めれば可能だと思う。

【委員】

○著作権者が認めていれば良い。

【事務局】

○「チェブラーシカとロシア・アニメの作家たち展」のときは、展示室の中は写真が撮れないので、展示室の入口のところにチェブラーシカの大きな人形を置いたら、多くの若い女性が写真を撮って帰った。

【事務局】

○一種の参加型みたいなものになるので、喜ばれる。

【委員】

○著作権が切れたもので何か考える手はあるかもしれない。東京都の場合には、今、寄託のものも含めて、OKしている。寄託者がだめだというものについてはだめだが。

【事務局】

○京都市もOKのマークがついていたように思う。

【委員】

○ただ、企画展は、やはり所蔵者のことがあって、両方ともだめだと思う。

②平成25年度事業計画（案）について

【委員】

○先ほど質問された収支は、冊子か何かで報告されるということか。

【事務局】

○年報に非常に大まかな内容であるが記載している。

【委員】

○次年度の有料観覧者の目標人数はどれくらいか。

【事務局】

○毎年、年度当初に 県の各所属は組織目標というものを立てている。当館においても、その中で、有料観覧者数を約3万としている。次年度予算の編成において、展覧会の収支のバランスを見て、約3万人とした。なお、今年度も同じぐらいの目標値となっている。

【委員】

○観覧者総数では5万人ぐらいになるのか。

【事務局】

○企画展のみでそれぐらいになる。

【委員】

○有料観覧者は総数の大体6割ぐらいということか。

【事務局】

○来年は館蔵品展が2本開催するが、最初の「装いとしつらえの四季展」は、ひよっとしたら多くの方が来られるかもしれない。なかなか館蔵品展というのは難しいが。

【事務局】

○志村ふくみさんのことが、今、読売新聞に連載されている。「装いとしつらえの四季展」は志村ふくみさんの名前を前面に出しているので、ちょっとタイムリーかなとも思っている。

【委員】

○「柳宗悦展」は大阪で開催したものが回ってくる展覧会か。

【事務局】

○来年は来年で組むことになるが、これはご承知のようにNHKプロモーションがやっている。大阪でやったものと基本的には一緒である。ただ、滋賀県でやるので、大津絵とかをもう少し増やしてもらうようなアレンジはしてもらえるというところである。

【委員】

○NHKの場合は、大津放送局になるのか。

【事務局】

○そのとおり、大津放送局になる。

【委員】

○京都放送局まではやってくれないということか。

【事務局】

○大津で番組を作ってもらって、近畿エリアで流してもらおうということができるので、それが非常に有効である。

【委員】

○近畿エリアで流してもらえるのか。

【事務局】

○NHKが入ってくると、情報を今ぐらいの時間とか夕方に近畿エリアで流してくれる。

【委員】

○「柳宗悦展」のちらしなどの印刷物はもうできるのか。

【事務局】

○作ろうと思えばできる。ただ、問題は、講演会の先生に誰を呼ぶとか、日程とかといったものになる。

【委員】

○「装いとしつらえの四季展」のときにそれがもう並ぶということではできるのか。半年前に並ぶということになるが、最近は、広報がものすごく速くなっている。「装いとしつらえの四季展」に合わせて打つぐらいの広報をやられてはどうか。志村さんの関係の人から、「柳宗悦展」の情報が流れることもある。そういうことをされてはどうか。

【事務局】

○「祈りの国、近江の仏像展」や「石山寺縁起絵巻の全貌展」では、プレチラシを出している。

【委員】

○「装いとしつらえの四季展」は開催期間が長い。この時に、「柳宗悦展」のプレチラシを並べておくということをしてはどうか。

【事務局】

○ちょっと予算的にはどうか。

【委員】

○最近では、1年ぐらい前からチラシが出ている。半年だからできると思う

【事務局】

○京都国立美術館では、3年先ぐらいのものが出ている。

【委員】

○諸橋近代美術館コレクションの展覧会は、諸橋近代美術館と近代美術館の1対1でのやり取りによるものなのか。

【事務局】

○そうである。館長が話をまとめた。

【事務局】

○当館の所蔵作品を諸橋近代美術館に貸したときも、1対1であった。この時期なら、向こうは冬季休館中で、最優先で、何でも貸してくれるということだったので、最も集客力のありそうな、関心を持ってもらえそうなものを、できるだけ多く集めるよう計画している。

○最初の予定よりは少し遅れたが、諸橋近代美術館が、震災後開館して初めての展覧会を、当館の20世紀の版画、ピカソとかマチスとかの版画を展示されて、好評だったので、そのお返しという意味もある。

【委員】

○広報を上手にやれば、多くのお客さんに入ってもらえるのではないか。

【委員】

○ダリをもっているってすごいことだと思う。

【事務局】

○ダリの世界的なコレクションを持っている。

【委員】

○広報が成功するとよさそうに思う。

【事務局】

○印象派の作品もあり、お客さんを呼べる目玉になるようなものもあると思う。

【委員】

○ダリと言えば、新聞社も関心を持ってくれるのではないか。

【事務局】

○新聞社は、たぶん、どこかと共催というか紙面共催みたいなものをしていただくことになると思うが、ただ、ある新聞社と共催となると、他のところが記事を書かせてくれないということもあるので、そのあたりの難しさもある。

【委員】

○冬期休館を1月半ほど、年末年始にやられるが、この時期に他の美術館も同じようにされるのか。

【事務局】

○他の美術館では、やっておられないところが多いと思う。

【委員】

○東京では、年末年始に美術館に入ったことがあるような気がする。年末年始は休みが多く、「美術館にでも行ってみよう。」というようなことになることも多いのではないかと思う。来年はもう間に合わないが、再来年ぐらいからは、工夫もされても良いのではないか。それと、1月半というのは、ちょっと長すぎるような気がするが。

【事務局】

○確かにちょっと長いが、統計的には、お客さんの少ないのがこの時期であり、また、開館以来30年近くが経過し、施設、設備の老朽化から、危険なことが起こったりすると困るので、メンテに1箇月ぐらいは要することになっている。

【事務局】

○年間の定期点検を全部ここにあて込んでいる。

【事務局】

○一つの展示室に複数のメンテ事項があるので、それらを一気ににはできない。一つが終われば次というようなことになったりする。そういうことがあることをご理解いただきたい。

【事務局】

○開館すると、すべての体制を整えないとだめなので、中途半端にここだけ、そこだけというわけにはいかない。費用対効果ということもあり、統計的にお客さんの少ない時期に実施している。

【委員】

○今年の企画展の中で、「祈りの国、近江の仏像展」のときのように、他の美術館と連携して、開催されるようなものはあるのか。「柳宗悦展」なら、たとえばMIHO MUSEUMと連携できそうに思うが。

【委員】

○「柳宗悦展」は巡回展ではなかったか。

【事務局】

○巡回展であり、他館との連携はできない。柳宗悦さんの展覧会は、以前、MIHO MUSEUMにでも開催されたことがあると思う。来年度は他館と連携して開催するものは、今のところない。

【委員】

○先ほどから集客のことが問題になっているが。展覧会に寄せていただくと、作品を解説したものがあがるが、「石山寺縁起絵巻の全貌展」のとき解説は、素人には難しいと思った。一般人にしてみれば専門的な用語が並んでいて読むのにつらい解説だと思った。どこの展覧会であっても、結構専門的な用語を使っていることが多いが、興味のある人ばかりが来ておられるならそれで良いと思うが、そうではない人にはそうしたことで良いのか。滋賀県民の中で近代美術館に来てない人が大半であり、そうした多くの人を呼び寄せるのなら、わかりやすさということも、やっぱり大事なかなという気がする。それともう一つ、大学との連携ということも良いが、

その前に、高校への働きかけはどうなんだろうかと思う。興味のある高校生はたくさんいると思うし、進路を決めるときでもあり、そういうときに来てもらえるような働きかけも大事ではないかと思う。

【事務局】

○解説が難しい、解説をどうするかというのは、永遠の課題みたいなもので、専門用語を使わないとすると、ものすごく長い説明をしないといけないことになる。対応としては、音声ガイドが有効なのかなと思っている。ただ、巡回展であれば、そういうものを、企画会社が用意してくれるので良いが、自主企画でそれを用意しようとなると、予算的な問題もあり、難しくなる。とは言え、永遠の課題の一つでもあり、いろいろ考えて行きたい、ご意見をいただければと思う。

【委員】

○たいけんびじゅつかんが好評だということなので、もっと多くの参加者を許容できりょうな工夫をこれからやっていただけたらと思う。それと、レストランがここにはない。けれど、夕照庵がある。抹茶とお菓子が食べられて350円と安く、お庭もきれい。レストランがない代わりに、夕照庵を巻き込んで何かできないか。そういうように、今あるものを活かしていくような取り組みもして行ってはどうか。また、ここは近代美術館なので、見に行きたいのは、やはり、近代美術だと思う。たとえばダリの作品を展示すると言えば、やっぱり本物をみたいと思われる方もおられると思う。そういうことも大事にさせていただいて、新生美術館に備えていただければと思う。

【委員】

○今、そういう意見が出たので、ちょっと横道にそれるかも知れないが。この美術館ができたころ、私は京都に住んでいたが、アメリカのポップアートの殿堂ができ、近代美術館は現代美術に本腰を入れてやると聞いていた。にも拘らず、今回の3本の柱から、現代美術が抜け落ちつつあるような感じがしている。

【事務局】

○従来の3本柱の一つは現代美術である。従来の3本柱を一つにまとめて、そこに、仏教美術とアール・ブリュットを加えて新生美術館の3本柱と言っている。

【委員】

○しっかりと3本柱に入っていると考えて良いのか。

【事務局】

○近代美術館から継承される。ただ、おっしゃっていることは、わからないではない。

【委員】

○すごい鳴り物入りで、現代美術をやると聞いていたので、全部なくなるということではないだろうが、ちょっと崩れてきているような感じがする。とても期待していて、初期の美術館講座とかでも、いろいろなものを勉強させてもらった者としては、ちょっと後退ぎみで、さみしい思いがする。

○継承はされるけれども、補強はされないという感じがする。

【事務局】

○補強をどうするかとなると、やはり作品を購入するということになってくると思う。

【委員】

○今は、もう買えない。値段的には、近代美術館ができたころが一番よかった。

【委員】

○継承して発展させていく一番の課題は、おっしゃるように購入なので、その根元を止められると、なかなか発展というのは難しい。

【事務局】

○あのころは買えたが、その後、アメリカの経済だけがひとり勝ちみたいになったりしたので、今はものすごい値段になっている。

【委員】

○今持っている作品を売ることができれば、それらを世界に売って、資金を蓄えて、ほかの作品を買ったら、すごいもの買える。海外の美術館はそれができる。

【委員】

○海外の美術館でも公立は難しいのではないか。美術館が購入したものを売るべしとは、私にはとても思えない。